

2024 年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 氏名 中江裕人

〈 研修概要 〉

2025 年 2 月 25 日から 3 月 6 日までの 10 日間、ベトナム研修に参加しました。本研修ではホーチミン市の国立
チョーライ病院における X 線一般撮影や X 線 CT、MRI の臨床実習やフエ医科大学との国際交流プログラ
ムを行いました。国際交流プログラムは、臨床実習や講義を通して専門的な知識や技術、またはベトナムの文化
などを先方の学生らと共有するものでした。

〈 研修参加の目的 〉

今までにない経験を五感で体験し、失敗を恐れず挑戦することの重要性を体に刻み、安定思考を変えることが
本研修の目的でした。学部 2 回生の後期、国家試験や就職活動への不安が募り、頭がいっぱいでした。そんな
中、本学のある先生との面談で「将来の不安にとらわれるより、今できることに全力で挑むべき」とのお言葉
に感銘を受け、殻にこもらず、破る行動が必要だと考えました。そこで、自身の性格を少しでも変えることを
本研修の参加目的として、研修への応募を決意しました。

〈 研修で学んだこと 〉

～チョーライ病院における研修～

チョーライ病院は約 1800 床を保有するベトナム南部最大の国立の医療機関です。そのためベトナム南部のさま
ざまな場所から患者さんが訪れます。チョーライ病院の第一印象は、圧倒的な患者数とそれに伴う検査数で
す。具体的には、私が経験した臨床実習では、X 線 CT 検査は一日約 100 件でしたが、チョーライ病院は約
600 件と 6 倍の検査数でした。そのため、院内は日本の病院では目にできない光景ばかりで、学びとともに驚
きも多くありました。特に、MRI 検査では、検査終了と同時に次の患者さんが入室し担当の診療放射線技師と
一緒に検査を終えた患者さんの介助を手伝っていたことには驚かされました。日本ではまずプライバシーの配
慮などの関係で、検査室内で患者さん同士が接触することはありません。それに加えて患者さんはルートを保
証した状態であり、ルートの逸脱や患者さん同士の接触による感染などの心配をしながら実習を受けておりま
した。しかし、これはベトナムでは一般的なことでした。ただ、医療スタッフが必ず目の届く範囲にいるよう
に患者の動線に工夫がされ、安全を確保していました。チョーライ病院では、患者さんの待ち時間を削減する
ための工夫が多くあり、「遠方から訪れる患者さんを配慮して、可能な限り早く撮影し、結果を持って家族の元
に帰っていただく」ことを大事にされている病院であると考えました。国や文化に関係なく、患者さんを大切
にすることが、患者さんとの信頼関係を構築していく鍵であることを学びました。

～フェ医科薬科大学病院における研修～

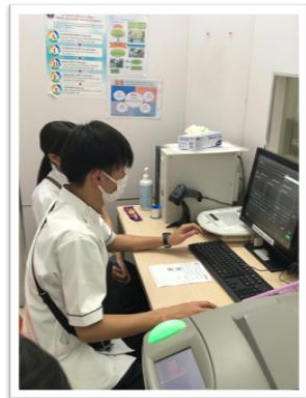
フェ医科薬科大学病院は、チョーライ病院と比較して、患者数は少なく、また多くの学生が放射線診療業務に従事していることに驚きました。先生や学生の方々から教えていただきながら、一般撮影やCT、MRIのポジショニング、そして撮影した画像を確認する検像作業の実習など、貴重な経験をさせていただきました。一般撮影では胸部正面の撮影が多くありました。病院では大きな撮影範囲で撮影し、画像処理で不要な部分をトリミングしていました。私は患者さんに合わせて撮影範囲の設定を行うと学んでいたため、これは印象的でした。また先方の学生が非常にテキパキと検査をする姿も印象に残っています。胸部の一般撮影でのポジショニングでは、理論として理解していても実践することが難しく、個々の患者さんに応じた微調整が難しく時間を要してしまいました。臨床で求められるスピードと精度に重点を置き、座学の中から臨床を想像し、使える知識にすることを意識していきます。

～チョーライ病院の方々やフェ医科薬科大学の学生との交流～

チョーライ病院の方々とのWelcome partyでは、初対面かつ英語での会話という状況に大きな緊張を感じていました。しかし偶然隣の席になった方が温かく話しかけてくださり、来日された時のお話をしました。そのおかげで次第に緊張が和らぎ、楽しい時間を過ごすことができました。その後、何度か食事を共にする機会があり、最終日のFarewell partyではサッカーの話を交えながら楽しく会話することができました。さらにその場でダンスを披露する機会がありました。参加者の皆様が非常に温かい雰囲気を作ってくくださったおかげで、楽しみながら踊ることができました。また先方の方々が日本の伝統衣装である法被を着て写真撮影をするなど、文化交流の素晴らしさを実感する機会にもなりました。

フェ医科薬科大学での国際交流プログラムでは、先方の学生らに素晴らしいおもてなしをしていただき、非常に感動しました。特に印象的だったのは、私たちが大ホールに入場する際の盛大な声援と拍手であり、その熱気と歓迎の気持ちが心に深く響きました。大勢の前でのプレゼンテーションは初めての経験であり、当初は非常に緊張しましたが、温かい雰囲気の中で発表することができました。プレゼンテーションは最も力を入れて取り組んだもので、落ち着いて楽しみながら発表できたことが何より嬉しく、練習の成果が得られた経験の一つです。さらにダンスの披露では、事前に仲間と時間を見つけて練習を重ねたことが功を奏し、

これまでで最も良いパフォーマンスを発揮することができました。チームで一つの目標を成し遂げたときの充実感は格別でした。またその後、先方の学生のプレゼンテーションの時の質問に自ら手を挙げ、答えた瞬間がありました。答えた内容は異なっていましたが、その挑戦に先方の学生から時計という思い出の品をいただくことができました。この経験は目標であった「失敗を恐れず挑戦する」ことに対する結果の一つでした。最終日のFarewell partyには、体調不良のため参加できませんでした。しかし先方の学生らがダイレクトメッセー



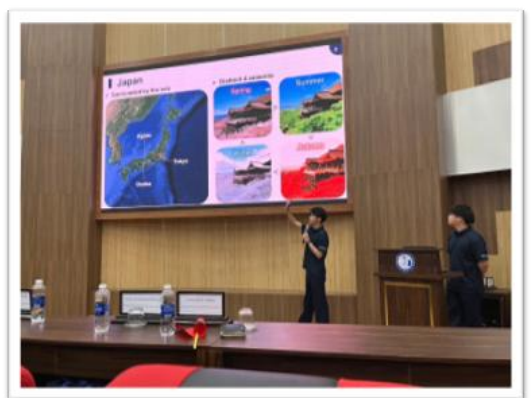
▲ 臨床実習（一般撮影）



▲ 臨床実習（MRI）



▲ チョーライ病院のスタッフとの交流



▲ プレゼンテーションの様子

ジで「Are you okay?」や「Do you feel better?」などの心配の言葉をかけてくれたことが心に残っています。その温かい思いやりに励まされ、この研修を通じて素晴らしい仲間に恵まれたことを改めて実感しました。

今回の経験を通じて、大勢の前で話すことの緊張感と楽しさを学びました。また協力することや温かい思いやりなど友達や仲間の支えの大きさを改めて感じ、感謝の気持ちがあふれてきた10日間でした。

〈まとめ〉

本研修の目的は、「今までにない経験を五感で体験し、失敗を恐れず挑戦することの重要性を体に刻むこと」でした。研修前は国家試験や就職活動への不安にとらわれていましたが。研修を通じて、積極的にチャレンジすることで新たな発見や学び、人間関係などを得ることができました。チョーライ病院では、圧倒的な患者数の中で迅速な検査が求められる環境においても、患者さんへの配慮を忘れないことを学びました。一方、フエ医科薬科大学病院では実際に撮影業務に携わり、今まで学んできた知識を臨床で使える知識にする必要があると痛感しました。国際交流プログラムでは、先方の学生との協力を通じて、異文化理解の大切さを実感し、積極的なコミュニケーションの重要性を学ぶことができました。

本研修を通じて、異文化や異なる医療環境を理解し、それを自身の成長に結びつけることができました。今後は研修で得た学びを生かし、より広い視野を持って「患者さんへの配慮」を常に意識する診療放射線技師として臨床での実践力を高めていきたいです。



▲ 伝統着 アオダイでのフエ王宮観光

〈謝辞〉

多忙な臨床業務の傍ら研修を受け入れ、学ぶ機会を与えてくださったチョーライ病院の診療放射線技師の方々、フエ医科薬科大学の先生方と学生らに深く感謝申し上げます。楽しく安全に引率してくださった霜村康平講師、石田翔太助教、本谷崇之助教、並びに準備から手厚く支援していただいた職員の方々に感謝申し上げます。最後に、本研修の参加を快く受け入れてくれた両親にも心より感謝いたします。